



取扱説明書

JOG E

モーターサイクル

 ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

DV4-28199-J0

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。

- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受け渡し確認書・保証書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要ですので、お守りください。

- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

 **危険** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

 **警告** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

 **注意** 指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

 **アドバイス** お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

目次

安全なライディング P. 2

操作ガイド P. 16

メンテナンス P. 45

こんなときは P. 60

インフォメーション P. 66

スペック P. 76

索引 P. 77

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

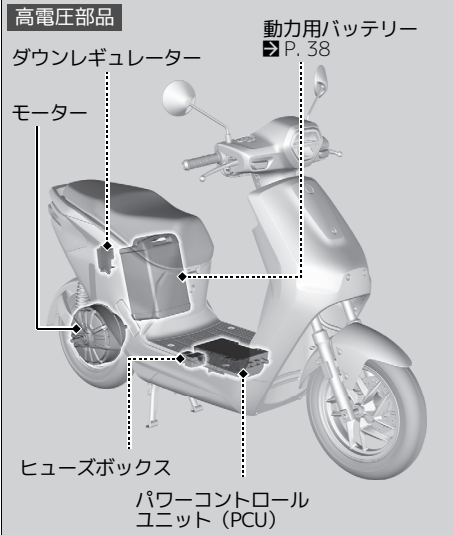
安全上守っていただきたいこと	P. 3
安全運転のために	P. 8
運転するときの注意	P. 9
アクセサリーと改造について	P. 13
積載について	P. 14

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法に準じて設けられた日常点検・定期点検を行ってください

電動二輪車の取り扱い



- この電動二輪車は、灯火器などを作動させる 12 V バッテリーと、モーターを駆動させる高電圧の動力用バッテリーを搭載しており、動力用バッテリーの取り扱いは、動力用バッテリーの取扱説明書に従ってください

アドバイス

車体が水に浸かった場合、動力用バッテリーに水が侵入し、故障する可能性があります。走行をさけ、直ちにご購入店にご相談ください。



この車両の各部位およびそれらを接続する配線（オレンジ色または紫色）には高電圧がかかっており、分解や改造などを行うと感電や発火の原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

これらの高電圧部に対し、以下のことを守ってください。

- ・ 分解や改造を行わず、触れないこと
- ・ 点検や修理はご購入店に相談すること

● 事故が起きたときには、下記に注意してください

- ▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色または紫色）には、絶対に触れないでください。▶ P. 3
- ▶ 電解液が眼や皮膚に付くと、侵されたりヤケドを負いますので、電解液には触れないでください。
万一の場合の応急処置 ▶ P. 49
- ▶ 火災が発生したときは、電気火災用消火器を使用してください。少量の水での消火は、かえって危険な場合があります。万一、消火の際に水を使う場合は、消火栓などから多量の水をかけてください。

 警告

高電圧の動力用バッテリーを使用しているため、事故が起きたときに誤った対応をすると、思わぬ事故を起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

事故が起きたときは、この取扱説明書に記載された方法・要領に従ってください。

ピクトラベル

この車には、特定のシンボルマークで説明するラベルが貼付されています。

ここでは、ラベルの内容について説明しています。

重大な傷害に至る可能性など、安全に関する重要な情報を記載しています。

この取扱説明書をよく読み、ラベルを剥がさないでください。

ラベルが剥がれてしまったり読めなくなってしまうときは、ご購入店にご相談ください。



この取扱説明書を、よくお読みください。



サービスマニュアルをよくお読みください。
安全のため、整備はご購入店で行ってください。



危険（赤色）

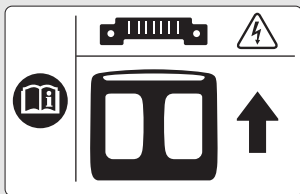
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

警告（橙色）

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

注意（黄色）

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの



動力用バッテリー取り付け方向注意ラベル

- ・ 感電のおそれがあるので、金属で動力用バッテリー出力端子などの充電部に触れないでください。
- ・ ラベルに表示された向きと同じ向きで動力用バッテリーを取り付けてください。



動力用バッテリー取り付けラベル

- ・ 動力用バッテリーの取り外し、取り付けは垂直に行ってください。



感電防止ラベル

- ・ 感電のおそれがあります
- ・ カバー（またはヒューズボックスのカバー）を開けたり、カバー内部の部品に触れないでください
- ・ 帯電状態の部品に触れると、死亡または重大な障害に至る可能性があります
- ・ カバー内部の部品の取り扱いは資格を持った技術者のみが行ってください
- ・ 取扱説明書をよくお読みください

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をフロアに置いてください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- ウインドスクリーン、フェアリングと車体の間に物を置かないでください。
- エンジン音がしないため、周囲の状況に十分注意し、他の車両や歩行者などに対する配慮を欠かさないでください

乗車時の服装

運転者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

■ ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車用で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください

- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

■ グローブ

摩擦に強い皮製のもの

■ ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

■ ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

動力用バッテリー

動力用バッテリーから異臭がしたときは、動力用バッテリーの異状が考えられます。直ちに屋外の安全な場所に車を止めて、火元を遠ざけ、メインスイッチを○(Off)にして、ご購入店にご相談ください。

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

■ 慣らしのポイント（走行距離 100 km まで）

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキをしない
 - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
 - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
 - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。
- 連続したブレーキ操作をしない
 - ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。断続的なブレーキ操作をしてください。

Ⅰ コンビブレーキ

左ブレーキレバーを操作すると、後輪ブレーキが作動すると共に前輪ブレーキが作動し、右ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。右ブレーキレバーのみ操作した場合と左ブレーキレバーのみ操作した場合では、制動力が異なるため効き具合に違いがあります。

制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

Ⅱ 雨天または水たまりを走行したとき

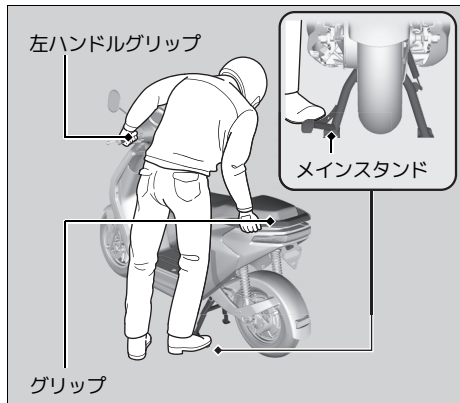
路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

駐車するとき

- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜いて、シャッターを閉じる

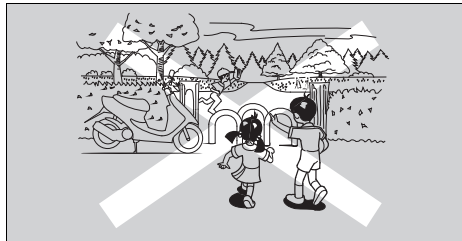
Ⅰ メインスタンドでの駐車

1. メインスイッチを○(Off)にする。
2. 左手でハンドルをまっすぐにし、右手でグリップをしっかり持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立たせる。

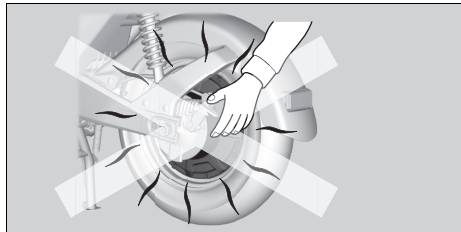


3. ハンドルバーを左いっぱいにする。
4. ハンドルロックをかけ、キーを抜いて、シャッターを閉じる。▶ P. 30

- モーター周辺などが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する



- モーター回転中および停止後しばらくの間はモーター周辺などに触れない



⚠ 注意

モーター周辺、ブレーキなどは、モーター回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- ・ モーター周辺、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- ・ 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面からヤマハ純正アクセサリーを推奨します。ご購入店にご相談ください。

ご購入店で取り付けられたヤマハアクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。

車の改造は保証の適用を除外されます。



警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

アクセサリーを装着する際は、ご購入店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

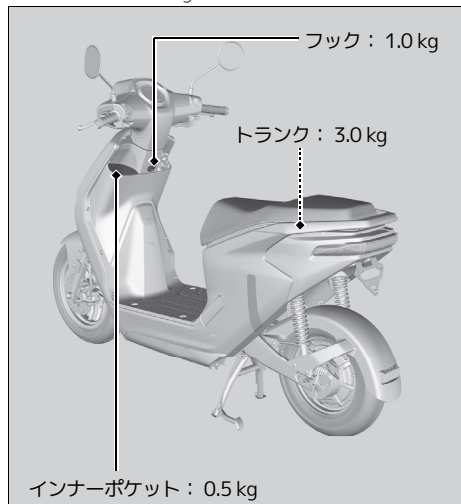
- 荷物を積むと積まないときに比べて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
 - 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
 - フックには、車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
 - ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
 - 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあるので、インナーポケットから荷物がはみ出さないようにしてください
- ヘッドライト、ウィンカー、ストップ/テールランプ、モーター周辺への積載はさけてください
 - ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。
 - カバー等が破損する場合があるので、指定の場所以外に荷物を積まないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
 - レンガや鉄片等、固くて重いものをトランクに積んだまま走行しないでください
 - ▶ 積載重量以内でもトランク底面が損傷する場合があります。
 - 貴重品やこわれやすいものは積まないでください
 - トランクに熱の影響を受けやすい物は積まないでください

● 荷物の積載は下記重量までです

フック： 1.0 kg

インナーポケット： 0.5 kg

トランク： 3.0 kg



基本操作の流れ

■ モーター起動前 ➡ P.46

運転する前に日常点検を行きましょう。
動力用バッテリー残量を確認しましょう。



■ モーター起動 ➡ P.33

周囲の安全を確認して、モーターを起動します。

基本装備の使いかた

- メーター ➡ P.20
- 警告灯 / 表示灯 ➡ P.26
- スイッチ ➡ P.28
- ハンドルロック ➡ P.30
- シャッター ➡ P.31
- ブレーキロック ➡ P.32

■ 加速 ➡ P.36

発進や加速はスロットルをゆっくり回し、急加速は避けましょう。



■ 発進

後方の安全や周囲の状況に注意し、方向指示器で合図を出し走り出します。



減速 ➡ P.36

STOP!



スロットルを素早く戻し、前後のブレーキの両方を使い速度を下げ、不必要な急ブレーキはさけましょう。制動灯（ストップランプ）が点灯し、後車への合図になります。

停止

早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車に注意しながら、徐々に路肩に寄ります。

駐車 ➡ P.11

安全な場所に駐車しましょう。メインスタンド、ハンドルロックを確認します。



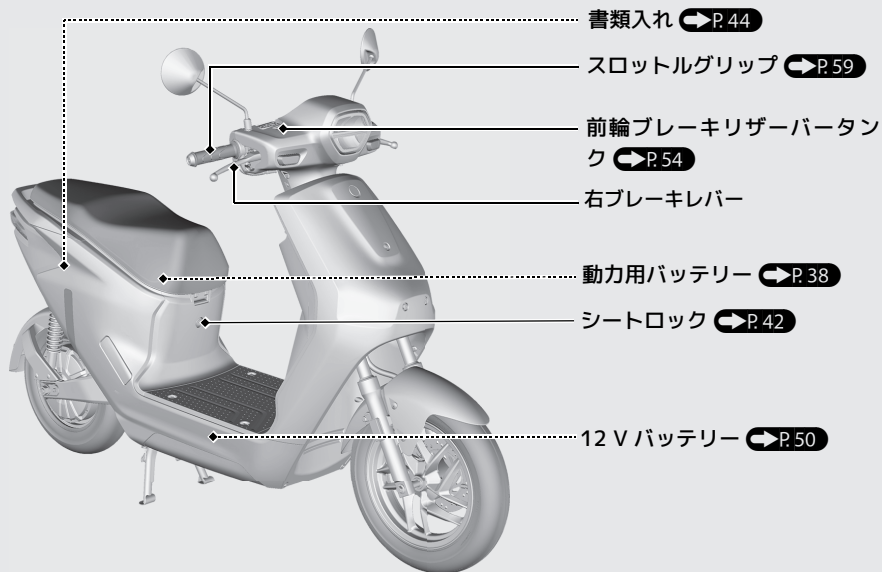
コーナリング

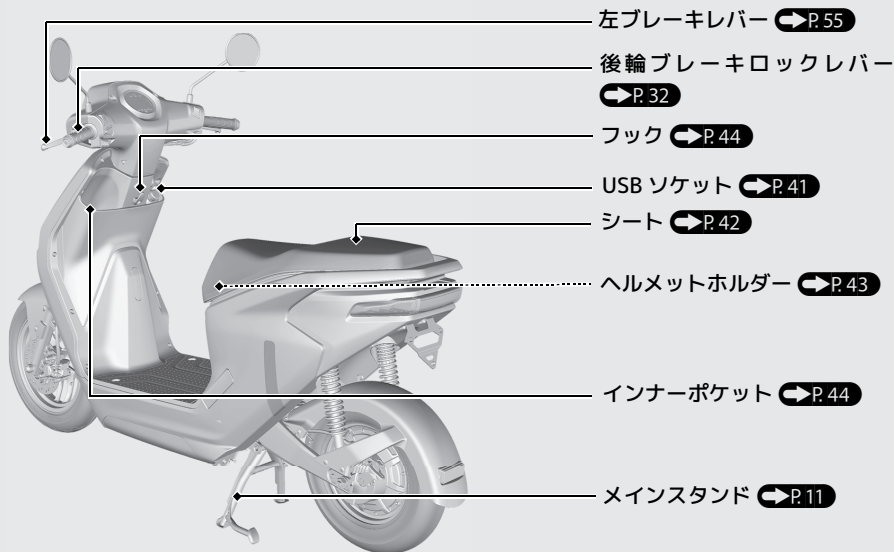
手前で十分に減速して ...



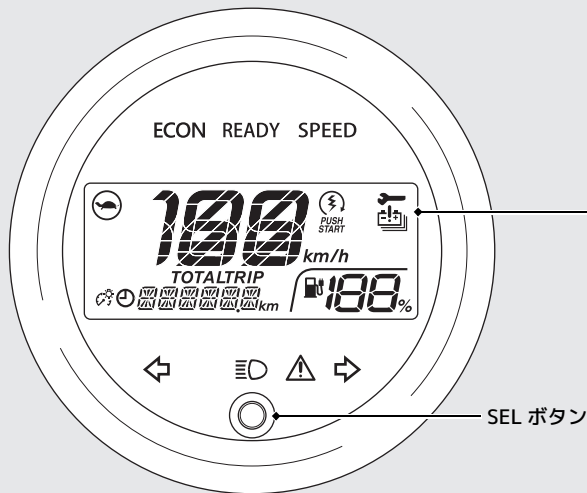
スロットルをゆっくり回して加速します。

各部の名称



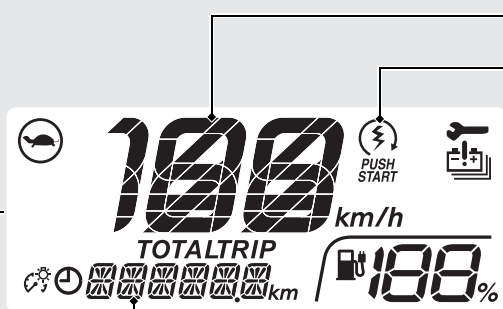


メーター



メーターの初期表示

メインスイッチを **I** (On) にすると、ディスプレイにオープニング表示があらわれます。表示されない場合は、ご購入店で点検を受けてください。



スピードメーター (速度計)

待機状態表示灯

メインスイッチが **I** (On) のときに、モーターの起動が可能になると点滅

待機状態表示灯が点滅しないときは ➡ P.61

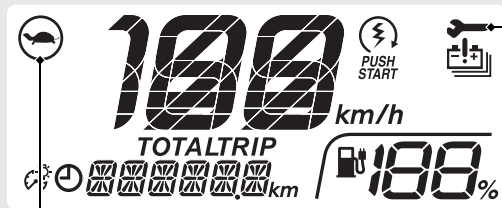
オドメーター [TOTAL]、トリップメーター [TRIP]、時計 (12 時間表示)

SEL ボタンを押してオドメーターとトリップメーターと時計を切り換える。

- オドメーター：総走行距離
- トリップメーター：トリップメーターを表示中に SEL ボタンを押し続け、0.0 km にリセットしてからの走行距離

時計の合わせかた ➡ P.24

“hot” または “cold” が点滅したときは ➡ P.62



出力制限状態表示灯

出力制限時に点灯

▶ 以下のいずれかの場合に出力を制限させます。動力性能が低下しますが走行は可能です。
また、出力制限がなくなると自動的に消灯します。

- PCU またはモーターが高温のとき
- 動力用バッテリーが高温または低温のとき
- 動力用バッテリー残量が少ないとき

登り坂で点灯したときは ➡ P.63

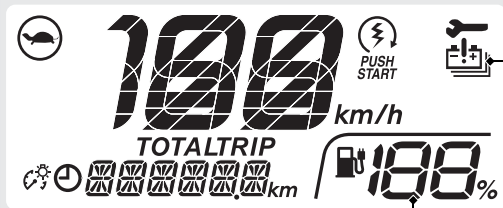
氷点下で点灯したときは ➡ P.63

動力用バッテリー点検灯

動力用バッテリーの容量低下をお知らせします。

▶ 点滅した場合は、ご購入店で点検を行ってください。

動力用バッテリー ➡ P.38



動力用バッテリー警告灯

動力用バッテリーの取り付け状態に異常があるときに点滅

- ▶ 点滅した場合は、動力用バッテリーの取り付け状態を確認してください。

➡ P.39

動力用バッテリーに異常があるときに点灯

- ▶ 点灯した場合は、ご購入店にご相談ください。

動力用バッテリー残量表示灯

動力用バッテリーの残量を表示します。

残量表示灯の減りかたは、使用環境や運転方法によって異なります。

残量表示灯が少なくなったときは、早めに充電してください。

- ▶ 動力用バッテリー残量が19%以下になると点滅します。



- ▶ 動力用バッテリーのバッテリー残量が0%になると走行できなくなります。

動力用バッテリー残量表示灯の故障表示 ➡ P.64

メーター 前ページの続き

時計の合わせかた

- ① メインスイッチを **I**(On) にする。
- ② 時計を表示する。 ➡ P.21
- ③ 時の表示が点滅するまで **SEL** ボタンを押し続ける。
- ④ **SEL** ボタンを押し、時を修正する。



- ⑤ **SEL** ボタンを押し続け、時を決定する。決定と同時に分の表示が点滅する。



- ⑥ **SEL** ボタンを押し、分を修正する。



- ⑦ **SEL** ボタンを押し続け、分を決定する。決定と同時に通常表示に切り換わる。

以下の方法でもメーターの設定から通常表示に戻ることができます。

設定中の項目は破棄され、設定済みの項目のみが反映されます。

- 約 30 秒間ボタンの操作がない場合
- メインスイッチを **O**(Off) にしてから **I** (On) にする

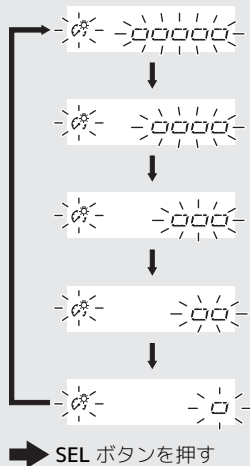
ディスプレイの明るさ調整

明るさを 5 段階で調整できます。

- ① メインスイッチを **I**(On) にする。
- ② オドメーターを表示する。
- ③ ディスプレイの明るさ調整表示が点滅するまで **SEL** ボタンを押し続ける。
- ④ **SEL** ボタンを押し、明るさを調整する。
- ⑤ **SEL** ボタンを押し続け、明るさを決定する。決定と同時に通常表示に切り換わる。

メインスイッチを **O**(Off) にすることでも設定を確定できます。

設定中に 30 秒間操作がない場合でも、設定は有効となります。



警告灯 / 表示灯

警告灯 / 表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、ご購入店で点検を受けてください。

操作ガイド

ECON ECON 表示灯

ECON モードを
オンにすると点灯

ECON READY SPEED

READY READY 表示灯

走行が可能な状態、または
走行中に点灯

速度警告灯

走行中に点滅したときは

➡ P.63

⇐ 方向指示器表示灯

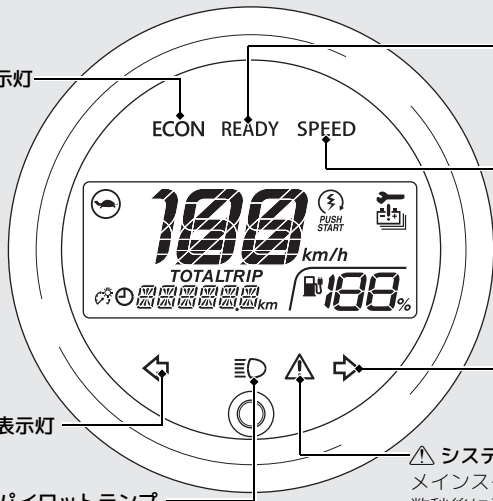
≡D ハイビームパイロットランプ
(前照灯上向き表示灯)

⇒ 方向指示器表示灯

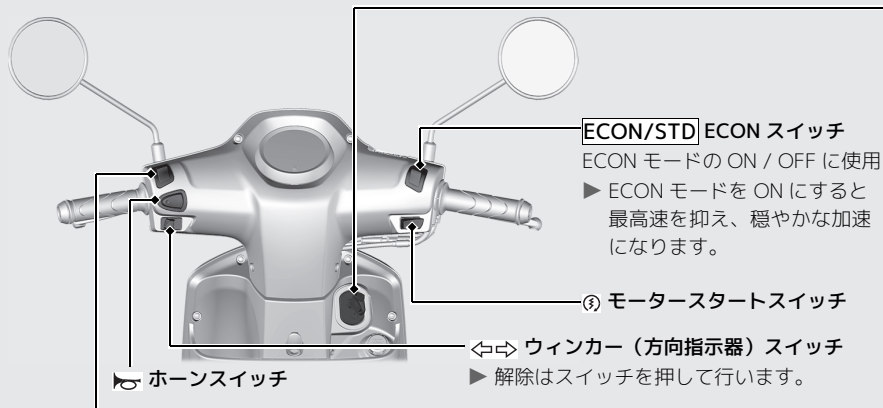
⚠ システム警告灯

メインスイッチを I (On) にすると点灯し、
数秒後に消灯

メインスイッチ II (On) 中に点灯・点滅した
ときは ➡ P.63



スイッチ



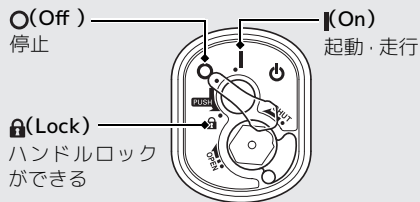
ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ

- ≡D(HI)：ヘッドライトが上向き
- ≡D(LO)：ヘッドライトが下向き

⏻ メインスイッチ

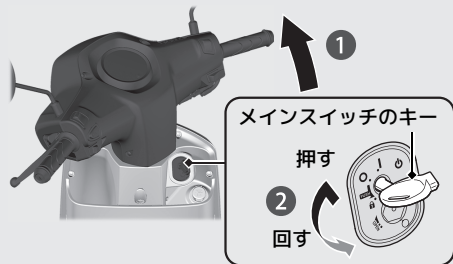
電気回路の ON / OFF、ハンドルロックに使用

- ▶ ○(Off) または 🔒(Lock) の位置で、キーを抜くことができます。



スイッチ 前ページの続き ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけ、シャッターを閉じましょう。
U字ロックなどの使用も推奨します。



■ かけかた

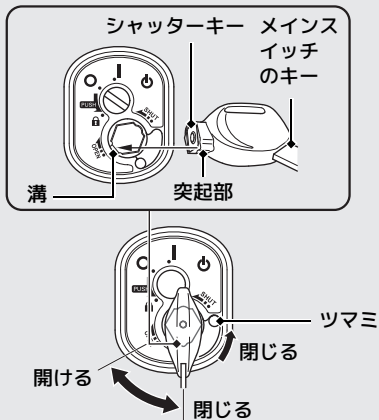
- ① ハンドルを左にいっぱいにする。
- ② メインスイッチのキーを押し込みながら、
🔒(Lock) の位置まで回す。
▶ ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを
左右に軽く動かしてください。
- ③ キーを抜く。

■ 外しかた

メインスイッチのキーを ○(Off) の位置まで回す。

シャッター

盗難やいたずら防止のため、メインスイッチにシャッターを装備しています。車から離れるときは必ずシャッターを閉じましょう。



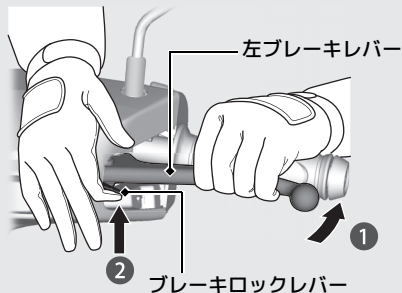
閉じかた

- ① メインスイッチのキーを抜く。
- ② ツマミを上方に動かして閉じる。
▶ シャッターキーの突起部を溝にあわせて差し込み、反時計回りに回すことで閉じることができます。

開けかた

- ① シャッターキーの突起部を溝にあわせて差し込む。
- ② シャッターキーを時計回りに回す。

後輪ブレーキロック



かけかた

- ① 左ブレーキレバーを強く握る。
- ② ブレーキロックレバーを矢印の方向に動かして保持する。
- ③ ブレーキロックレバーをセットしたまま左ブレーキレバーを放せば、タイヤがロックする。
▶ ブレーキの調整を適切にしないと、ロックされないことがあります。 ➡ P.55

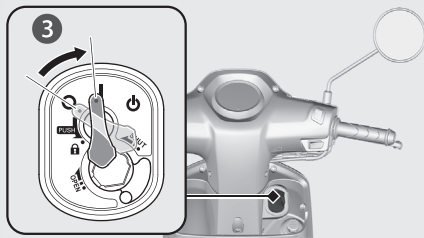
外しかた

左ブレーキレバーを強く握ると自動的にブレーキロックレバーが外れる。

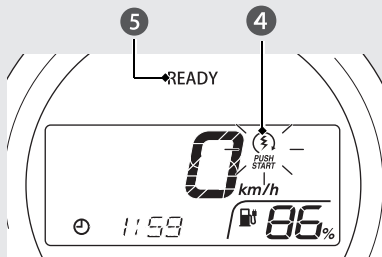
モーター起動

モーターを起動すると走行可能となります。

- ① メインスタンドを立てる。 ➡ P.11
- ② 後輪ブレーキロックをかけ、タイヤをロックする。 ➡ P.32
- ③ メインスイッチを **I**(On) に回す。



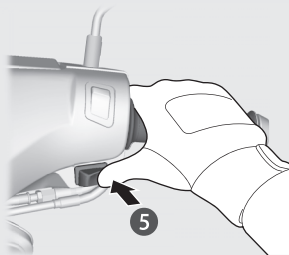
- ④ 待機状態表示灯が点滅することを確認する。
▶ 待機状態表示灯が点滅しないとモーターは起動できません。
待機状態表示灯が点滅しないときは ➡ P.61



モーター起動 前ページの続き

⑤ スロットルグリップを完全に閉じたまま、モータースタートスイッチを押す。

- ▶ モーターが起動すると、**READY**表示灯が点灯し走行可能となります。 ➡ P.35
- ▶ **READY**表示灯が点灯したらモータースタートスイッチから手をはなしてください。



モーターが起動しないときは ➡ P.61

正しい運転の操作

スタートの手順

走行前に**READY**表示灯が点灯していることを確認してください。

点灯していない場合、モーターは回転しません。モーターを起動してください。 ➡ P.33

- 1 ブレーキロックが外れないように注意しながら、車を前にゆっくり押してメインスタンドを外す。

- ▶ 乗車する前に、メインスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- ▶ モーターを起動してから走り出すまでは、スロットルグリップをむやみに回さないでください。

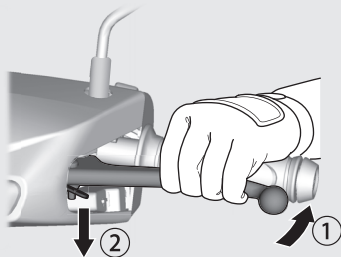
- 2 車の左側から乗車し、正しい乗車姿勢でシートにしっかりと腰をおろす。このとき足で車が倒れないように支える。

- ▶ 乗車してスタートするまではブレーキロックは外さないでください。



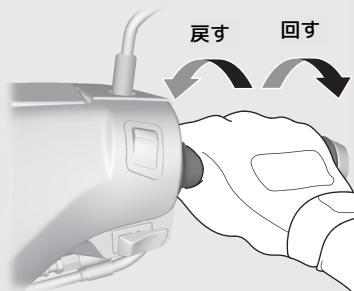
正しい運転の操作 前ページの続き

- ③** ブレーキロックを外す。
 左ブレーキレバーを強く握る（①）とブレーキロックレバーが自動的に外れる（②）。
 ▶ ブレーキロックレバーを外すときは、スロットルグリップを回さないでください。
 飛び出しなどの危険性があります。



- ④** スロットルグリップをゆっくり回し、発進する。
 ▶ スロットルグリップをいきなり手前に回すと急加速して危険です。

スロットルグリップで速度調整を行う。
加速する … スロットルをゆっくり回す。
減速する … スロットルをすばやく戻す。

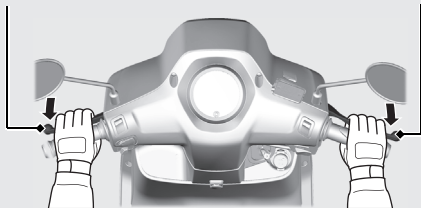


ブレーキの使いかた

ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。

左ブレーキレバー

右ブレーキレバー



走行中は、ブレーキロックを操作しないでください。

動力用バッテリー

本機の動力用バッテリーは、ヤマハ指定の動力用バッテリーを使用してください。

本機で使用する以外の用途で、動力用バッテリーを使用しないでください。

動力用バッテリーの取り扱いについては、動力用バッテリーの取扱説明書に従ってください。



動力用バッテリーは不適当な扱いをすると、感電や発火などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

動力用バッテリーの取扱いは、動力用バッテリーの取扱説明書に記載された方法・要領に従ってください。

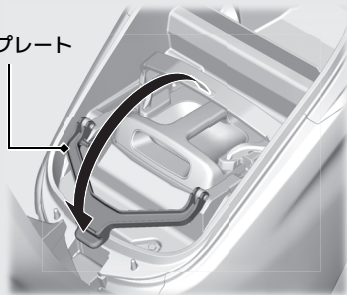
動力用バッテリーの脱着方法

動力用バッテリー脱着の際に、大きな衝撃を加えないでください。車両や動力用バッテリーの破損の原因となります。

取り外し

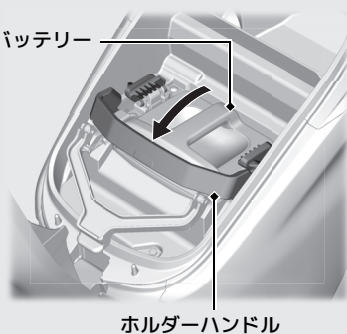
1. シートを開ける。 ➡ P.42
2. ロックプレートを外す。

ロックプレート



3. ホルダーハンドルを前方にずらして動力用バッテリーを取り外す。

動力用バッテリー



動力用バッテリー 前ページの続き

取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

- ▶ シートを閉じる前に、ロックプレートをもとの位置にもどし、ロックプレートが確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

ホルダーハンドルやロックプレートに必要な以上の荷重をかけないでください。ホルダーハンドルやロックプレートが変形し、故障の原因となる場合があります。

- ▶ 本機にはヤマハ指定の動力用バッテリー以外使用しないでください。
- ▶ 動力用バッテリーボックス内のプラグ（端子）を直接手で触れたり、工具などの金属で触れないでください。
- ▶ 動力用バッテリーの取り付け向きは、動力用バッテリーボックス内のラベルに合わせ確実に取り付けてください。
- ▶ 動力用バッテリーボックス内や動力用バッテリーの端子に異物がないか確認してください。



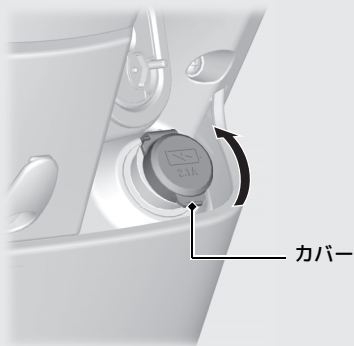
警告

動力用バッテリーボックス内に異物がある状態で動力用バッテリーの取り付けを行うと発煙や発火の原因となり、重大な傷害や死亡に至る可能性があります。

必ず異物の有無を確認し、異物がある場合は取り除いてください。もし取り除けない場合は無理に取らず、ご購入店にご相談ください。

USB ソケット

USB ソケットは、メインスイッチの下にあります。



接続する機器についてはご自身の責任でお使いください。

カバーを開けてお使いください。

定格 10.5 W (5 V、2.1 A) まで使用できます。

▶ USB ソケットはメインスイッチを **I**(On) にすると使用できます。

▶ ソケットへの異物侵入を防ぐために、使用しないときはカバーを閉めてください。

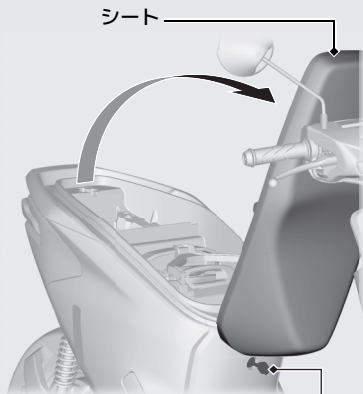
走行中に動いたり、振動による損傷を与えないように、機器をしっかりと固定してください。

アドバイス

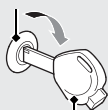
- ・ 発熱する機器や定格以上の機器を使用しないでください。
- ・ ソケットが濡れた状態では使用しないでください。
- ・ 機器のケーブルが挟まれたり絡まったりしないようにしてください。
- ・ 機器のケーブルがハンドル操作や運転の妨げにならないようにしてください。

その他装備の使いかた

シート



シートロック



メインスイッチの
キー

シートの開けかた

- ① ハンドルを直進状態にする。
- ② メインスイッチのキーをシートロックに差し込む。
- ③ メインスイッチのキーを時計回りに回して、シートを開ける。

シートの閉じかた

シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。

シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。

メインスイッチのキーをシート下に置き忘れた状態でシートをロックすると、キーが取り出せなくなりますのでご注意ください。

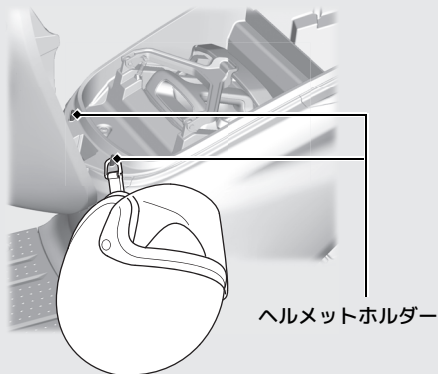
警告

動力用バッテリーを覆ったり、上にものを載せると破裂や発火などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

動力用バッテリーを覆ったり、上にものを載せないでください。

ヘルメットホルダー

シートの下にヘルメットホルダーがあります。
ヘルメットの金具をヘルメットホルダーにかけます。



▶ ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。



警告

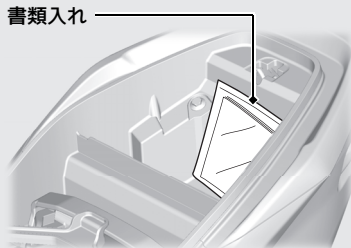
ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

シートの開けかた ➡ P.42

その他装備の使いかた 前ページの続き トランク

シートの下にトランクがあります。
書類入れはトランクに収納してください。

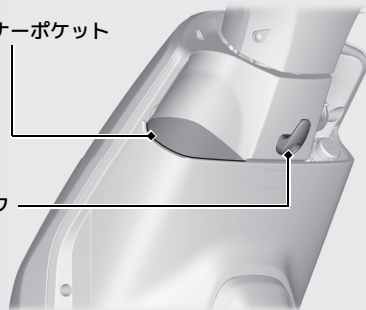


フック・インナーポケット

ハンドル下方にフック、下左側にインナーポケットがあります。

インナーポケット

フック



シートの開けかた ➡ P.42

- ▶ フックには車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。

アドバイス

インナーポケット内に貴重品やこわれやすいものは入れないでください。

メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識	P. 46
ブレーキ	P. 54
スロットル	P. 59

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年ごと（12 か月ごと）、2年ごと（24 か月ごと）の定期点検整備を設けてあります。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。



警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- ・点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- ・異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- キーを抜いた状態で行う
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- モーター周辺、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に準じ、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

異音や異状を感じたときは、直ちにご購入店にご相談ください。

■ 日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

- ブレーキ
 - ・ レバーの遊び（油圧式）
 - ・ レバーの遊び（機械式）
 - ・ ブレーキの効き具合
 - ・ ブレーキ液の量
- タイヤ
 - ・ 空気圧
 - ・ 亀裂、損傷
 - ・ 異状な摩耗
 - ・ 溝の深さ
- モーター
 - ・ 異音
 - ・ 低速、加速の状態
- 灯火装置および方向指示器
- 運行において異状が認められた箇所

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから1か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、ヤマハが指定する点検整備項目もあります。

■ 道路運送車両法に準じて設けられた点検

道路運送車両法に準じて設けられた点検には、以下の種類があります。

- 日常点検
- 1年ごと（12か月ごと）に行う点検
- 2年ごと（24か月ごと）に行う点検

■ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、ご購入店にご相談ください。

点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

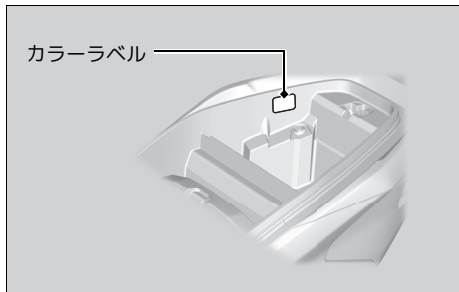
■1 か月目点検について

新車から1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげのご購入店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

■交換部品について

整備の際は、ヤマハ 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、シートを開けると確認できます。▶ P. 42



⚠ 警告

ヤマハ純正部品以外のアクセサリ・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

ヤマハ純正部品を使用してください。

動力用バッテリー

動力用バッテリーは長期間使用していると、少しずつ容量が低下します。そのため新車でお使いはじめての頃と比較すると、走行距離が短くなります。動力用バッテリーが一定容量以上低下すると、動力用バッテリー点検灯が点灯します。ご購入店で点検を行ってください。

Ⅰ 万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
 - ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
 - ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
 - ▶ 水、または牛乳を飲んでください。



警告

動力用バッテリーには、可燃性の有機溶剤が電解液として含まれています。誤った取り扱いをすると、ヤケドや重大な傷害に至る可能性があります。

- ・動力用バッテリーを火花、火気、高温になる熱源に近づけない。
- ・動力用バッテリーを子供の手の届く所に置かない。
- ・動力用バッテリーの分解や改造をしない。
- ・動力用バッテリーに衝撃をあたえない。

12 V バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプの 12 V バッテリーを使用しており、12 V バッテリー液の点検、補給は必要ありません。12 V バッテリーの点検・交換はご購入店にご相談ください。

アドバイス

12 V バッテリーには寿命があります。交換時期については、ご購入店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリー 12 V バッテリーを使用してください。

電装部品やアクセサリを取り付けるときは純正アクセサリをご使用ください。それ以外のものを使用すると 12 V バッテリーあがりや故障の原因となります。

ブレーキ液

銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

アドバイス

ブレーキ液は、プラスチックや塗装面を損傷します。漏れたブレーキ液は直ちに拭き取ってください。

指定ブレーキ液：

ヤマハ純正ブレーキフルード
DOT 3 または DOT 4

タイヤ

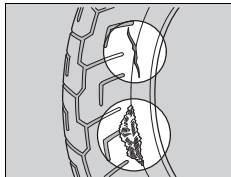
■ 空気圧の点検

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも1か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。

タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

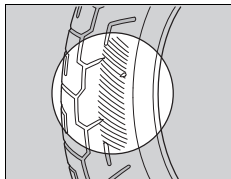
■ 亀裂と損傷の点検

タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。



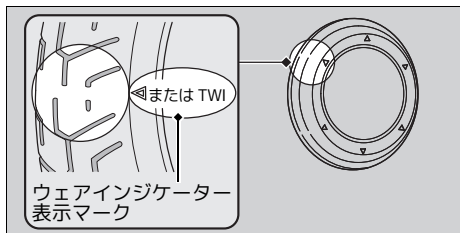
■ 異状な摩耗の点検

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。



Ⅰ 溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。



⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

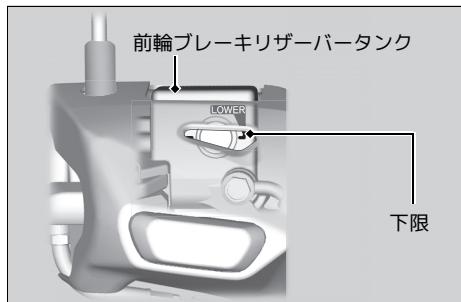
タイヤの交換は、ご購入店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧はスペックページをご確認ください。▶P. 76

警告

指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

前輪ブレーキ液の点検



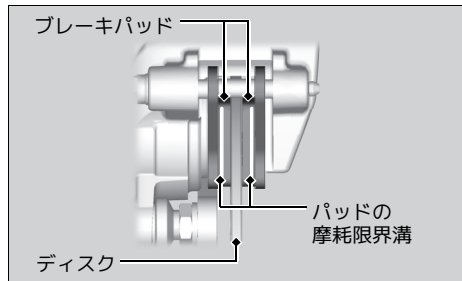
1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
 2. リザーバータンク上面を水平にし、液面が点検窓の下限 (LOWER) 以上にあることを確認する。
 - ▶ 液面が下限以下の場合やブレーキレバーの遊びが大きいときは、ブレーキパッドの摩耗の点検を行ってください。
- パッドが摩耗していない場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときはご購入店にご相談ください。

前輪ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキキャリパーの下側からのぞいて点検します。

摩耗限界に達したら左右同時にパッドを交換してください。

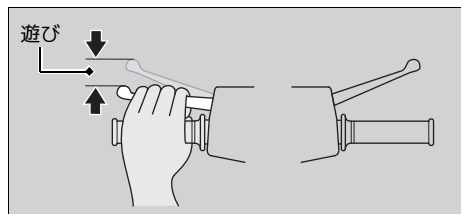
ブレーキパッドの交換は、ご購入店にご相談ください。



後輪ブレーキレバーの遊びの点検

抵抗を感じるまで、左ブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

後輪ブレーキレバーの遊び：10 - 20 mm

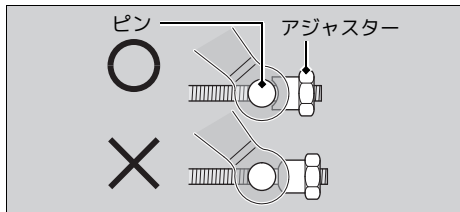


規定の範囲を超えている場合は調整してください。

後輪ブレーキレバーの遊びの調整

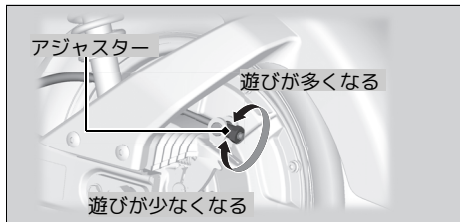
ブレーキの遊びはハンドルを直進状態にして調整します。

遊びの調整時は必ず、アジャスターの凹部をピンの凸部に一致させてください。



レバーの調整範囲を超えた場合や、詳しい遊びの調整についてはご購入店にご相談ください。

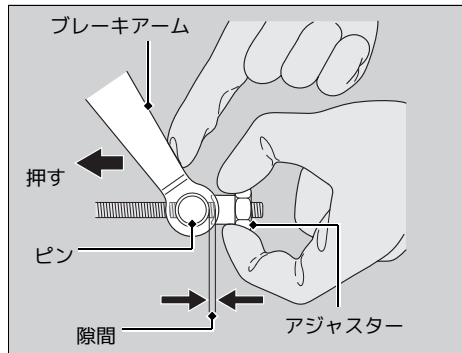
1. 後輪のアジャスターを半回転ずつ回し、左ブレーキレバーの遊びを調整する。



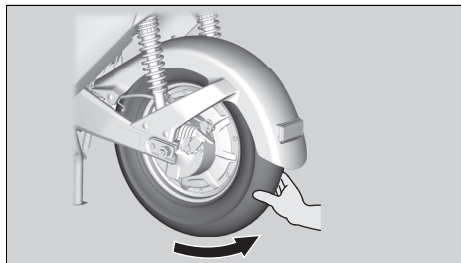
アドバイス

調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。

2. ブレーキアームを押し、アジャスターとピンの間に隙間があることを確認する。

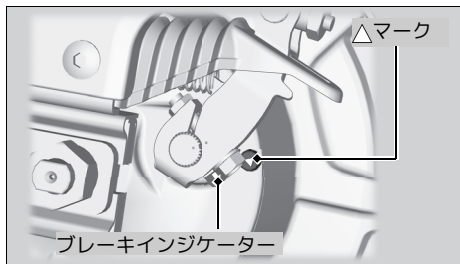


3. 後輪のタイヤを回し、ブレーキの引きずりが無いことを確認する。



調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

後輪ブレーキシューの摩耗の点検



左ブレーキレバーをいっぱいに引いて、ブレーキインジケーターの矢印とブレーキパネルの△マークが一致しないことを確認します。

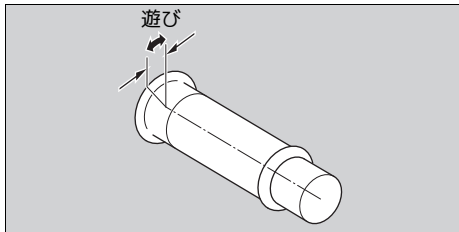
一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。ブレーキシューの交換は、ご購入店にご相談ください。

スロットルの点検

メインスイッチを○(Off)にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、スロットルグリップの遊びが適正か点検します。異状を感じた場合やスロットルケーブル外表部に損傷があるときはご購入店にご相談ください。

スロットルグリップの遊び：

2 - 6 mm



こんなときは

走行できない	P. 61
警告灯が点灯 / 点滅	P. 63
システム警告灯	P. 63
速度警告灯	P. 63
出力制限表示灯	P. 63
その他の故障表示	P. 64
動力用バッテリー残量表示灯の故障表示	P. 64
電装部品のトラブル	P. 65
ヒューズ切れ	P. 65

■メインスイッチをI(On)にしても メーターが表示されないとき

表示されない場合は、12 V バッテリーがあがっている可能性があります。ご購入店で12 V バッテリーの点検・交換を行ってください。

■待機状態表示灯が点滅しないとき

次の点を確認してください。

- スロットルグリップが完全に閉じているか
これらに該当しない場合や異状がある場合は、
ご購入店にご相談ください。

■モーターが起動しないとき

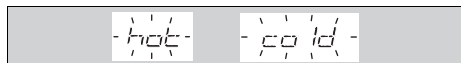
次の点を確認してください。

- 動力用バッテリーに残量があるか ■ P. 23
- システム警告灯  が点滅していないか
 - ▶ 点滅している場合は、直ちにご購入店に
ご相談ください。

これらに該当しない場合や異状がある場合は、
ご購入店にご相談ください。

■“hot”または“cold”が点滅しているとき

異常温度を検出すると、PCU およびモーター保護のため“hot”または“cold”が点滅します。出力制限がかかりますが走行は可能です。規定温度になると消灯し、出力制限が解除されます。



▶ **READY**表示灯が消灯した場合、走行できません。

メインスイッチを○(Off)にし、しばらく待ってからメインスイッチを■(On)にしてください。症状が改善されない場合は、ご購入店にご相談ください。

■動力用バッテリー残量表示灯が点滅しているとき

次の点を確認してください。

- 動力用バッテリーが正しく取り付けられているか ■ P. 39

■動力用バッテリー警告灯が点灯しているとき

動力用バッテリーに異状があると点灯します。



直ちにご購入店にご相談ください。

システム警告灯

メインスイッチ¹(On) 中に点灯した場合は何らかの異状が考えられます。直ちに ご購入店にご相談ください。

速度警告灯

車の速度が法定最高速度 (30 km/h) を超えると点滅し、運転者に注意をうながします。

出力制限表示灯

急な坂道を登り続けた場合、出力制限がかかり坂道が登りづらくなる場合がありますが故障ではありません。

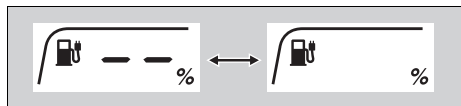
登り坂で停止する場合はスロットルを閉じ、ブレーキを使用して停止してください。

- ▶ ブレーキ をかけた状態でスロットルを開け続けしないでください。
- ▶ スロットル操作を利用して、その場にとどまるような停止はしないでください。

冬季の氷点下となる状態で車両を放置した後に走行する場合、出力制限がかかり走行性能が低下することがありますが故障ではありません。動力用バッテリーが規定温度になり停車すると消灯し、出力制限が解除されます。

動力用バッテリー残量表示灯 の故障表示

動力用バッテリー残量表示灯のセグメントが図のように点灯、消灯をくりかえしたときはご購入店にご相談ください。



ヒューズ切れ

ヒューズの点検・交換についてはご購入店にご相談ください。

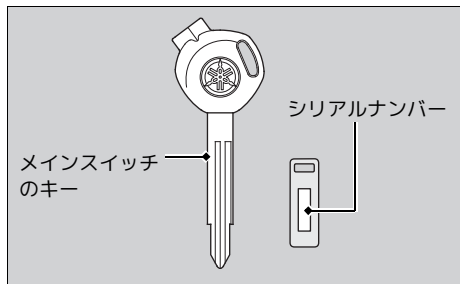
インフォメーション

キーの取り扱い	P. 67
装備に関する補足情報.....	P. 68
車のお手入れ	P. 69
保管のしかた	P. 72
廃棄するとき	P. 73
フレームおよびモーターナンバー.....	P. 75

キーの取り扱い

メインスイッチのキー

メインスイッチのキーについているキーナンバープレートには、シリアルナンバーがあります。このシリアルナンバーは、メインスイッチのキーを注文するときに必要になります。メインスイッチのキーを注文する際は、ご購入店にご相談ください。盗難防止のため、シリアルナンバーは他人に知られないように保管してください。



キーに金属製のキーホルダーを使用するとメインスイッチ周辺に傷がつくおそれがあります。

装備に関する補足情報

■ メインスイッチ

動力用バッテリーを取り外している状態でメインスイッチを●(On)の状態にしておくと 12 V バッテリーあがりの原因となります。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

■ オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

■ トリップメーター

トリップメーターは、9,999.9 km を超えると 0.0 km に戻ります。

■ 書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、トランクに収納してください。

■ モータードライブカットオフシステム

この車は、転倒したとき、自動的にモーターを停止するシステムが装備されています。モーターを再起動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度○(Off)にしてください。

■ ヘッドライト/ポジションランプ、フロントウィンカー、ストップ/テールランプ/リアウィンカー/ライセンスプレートライト

LED 使用のライトは一体式です。

もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、ご購入店にご相談ください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつなげられます。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。さらに、泥やほこりが付着するとフロントサスペンションの摩耗が早くなり、オイル漏れを引き起こすことがあります。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあと、泥やほこりの多い場所を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

モーター周辺、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
 - ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、可動部分に注油する。

5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

■ 洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
 - ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
 - ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- 動力用バッテリーおよび動力用バッテリーボックス内を水洗いしたり、洗剤などで清掃しない
 - ▶ 起動不良や故障の原因になります。
- シートの下から水を強くかけない
 - ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- ブレーキを濡れたままにしない
 - ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。

● ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき

- ▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
- ▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーの目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
- ▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。

● ヘッドライトがくもったとき

- ▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合はご購入店にご相談ください。

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- アルミホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはモーター周辺が冷えてからかけてください。

また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- 動力用バッテリーの劣化を防ぐために、動力用バッテリー残量を 30% にし、涼しい場所で保管する



推奨気温：0 ～ 25 ℃

- ▶ 保管中に1ヶ月に一度、動力用バッテリー残量表示灯を確認し、バッテリー残量が 10% になったら、30% まで充電してください。

アドバイス

- ・ 動力用バッテリーの残量が 10% 以下の状態で長期間保管すると、動力用バッテリーの故障の原因となるおそれがありますので、おやめください。
- ・ 満充電にして保管すると、かえって劣化が進んでしまう場合がありますので、おやめください。
- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる

長期保管後にお車に乗る際は、動力用バッテリーを満充電まで充電し、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、ご購入店にご相談ください。

また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くのご購入店へご相談ください。

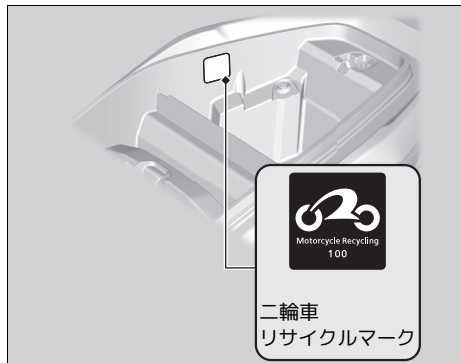
動力用バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。

二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金（動力用バッテリーは除く）

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はおお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを開けると確認できます。▶P. 42



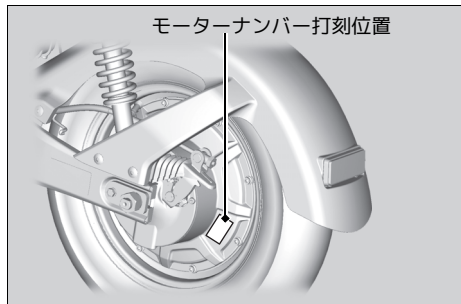
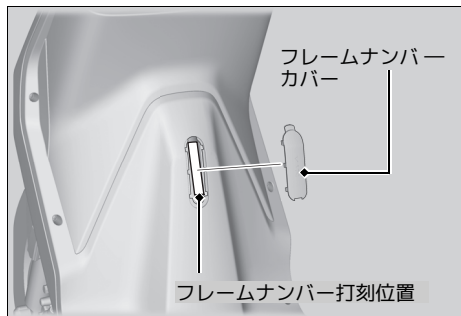
お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。廃棄二輪車に関するお問い合わせは、下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機(株) 二輪車リサイクルシステム
<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
ホームページ
<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

フレームおよびモーターナンバー

フレームおよびモーターナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。

フレームナンバーは、フレームナンバーカバーを外すと確認できます。



■主要諸元

型式	ZAD-EY01
全長	1,795 mm
全幅	680 mm
全高	1,140 mm
ホイールベース	1,300 mm
最低地上高	135 mm
キャスト角	27° 0'
トレール長	77 mm
車両重量	93 kg
乗車定員	1 名
最小回転半径	2.0 m
定格出力	0.58 kW
12 V バッテリー	YTZ4V
電圧 / 容量	12 V-3 Ah (10 HR)

■サービスデータ

左ブレーキ レバーの遊び	10 - 20 mm
タイヤサイズ	前輪 90/90-12 44J 後輪 100/90-10 56J
タイヤタイプ	バイアス、チューブレス
指定タイヤ	前輪 C-922K 後輪 C-922
タイヤ空気圧	前輪 150 kPa (1.50 kgf/cm ²) 後輪 200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
指定ブレーキ液	ヤマハ純正ブレーキフルード DOT 3 または DOT 4

■バルブ（電球）

ヘッドライト / ポジションランプ	LED
ストップ / テールランプ / リアウinker / ライセンスプレートライト	LED
フロントウinker	LED

■ヒューズ

動力用バッテリー	メインヒューズ 60 A その他のヒューズ 30 A
12 V バッテリー	メインヒューズ 20 A その他のヒューズ 7.5 A

ア

アクセサリ	13
安全運転のために	8
安全上守っていただきたいこと	3
安全なライディング	2

イ

インナーポケット	15, 44
インフォメーション	66

ウ

運転するときの注意	9
-----------	---

オ

お手入れ	69
オドメーター	21, 68

カ

改造	13
各部の名称	18
カラーラベル	48

キ

基本操作の流れ	16
---------	----

ケ

警告灯

システム警告灯	26
速度警告灯	26, 63
動力用バッテリー警告灯	23

コ

交換部品	48
後輪ブレーキロック	32
こんなときは	60
コンビブレーキ	10

シ

シート	42
システム警告灯	26
シャッター	31
書類入れ	68

ス	
スイッチ	
ECON スイッチ	28
ウィンカー（方向指示器）スイッチ	28
ヘッドライト（前照灯）上下切り換え スイッチ	28
ホーンスイッチ	28
メインスイッチ	29, 68
スタートの手順	35
スピードメーター	21
スペック	76
スロットル	59
セ	
積載について	14
洗車	69
ソ	
速度警告灯	26, 63
その他装備の使いかた	42
その他の故障表示	64

タ	
タイヤ	51
正しい運転の操作	35
チ	
駐車	11
テ	
点検	
定期点検	47
日常点検	46
電装部品のトラブル	65
ト	
動力用バッテリー	38
動力用バッテリー警告灯	23
動力用バッテリー点検灯	22
時計	21
トランク	44
トリップメーター	21, 68

ナ		
慣らし運転.....	9	
ハ		
廃棄.....	73	
ハンドルロック.....	30	
ヒ		
ピクトラベル.....	6	
ヒューズ.....	65	
表示灯		
ECON 表示灯.....	26	
READY 表示灯.....	26	
出力制限状態表示灯.....	22	
待機状態表示灯.....	21	
動力用バッテリー残量表示灯.....	23	
ハイビームパイロットランプ表示灯.....	26	
方向指示器表示灯.....	26	
フ		
服装.....	8	
フック.....	15, 44	
ブレーキ		
使いかた.....	37	
ブレーキ液.....	50, 54	
ブレーキシュー.....	58	
ブレーキパッド.....	55	
ヘルメット		
ヘルメットホルダー.....	43	
ホ		
保管.....	72	
メ		
メインスイッチのキー.....	67	
メーター.....	20	
メンテナンス.....	45	
モ		
モーター起動.....	33	
モータードライブカットオフシステム.....	68	

リ	
リアキャリア	15
リサイクルマーク	73

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずご購入店にご相談ください。

販売店

TEL

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①車両型式、車台番号、原動機型式、登録番号、登録年月日
- ②車種名、タイプ名、走行距離
- ③ご購入年月日



QQS-CLT-100-DV4

30GX3A00
00X30-GX3-A000

ⓧ XXXX.202X.XX.T